

## 盛岡山車

盛岡市と花蓮市の交流の発端は、盛岡秋まつりでおなじみの盛岡山車です。記念碑には、友好都市提携の際に花蓮市に派遣した山車があしらわれています。



花蓮市を  
練り歩く盛岡山車

## 南部点刻

記念碑の様子は文字を除きすべて、南部点刻と呼ばれる、石に直接ノミで点を打ち込む強弱で模様を掘る日本で唯一の技術が使われています。

機械を使った転写ではなく、手作業ゆえのコントラストと温かみがあり、記念碑にかけの友好の思いを表現しています。



南部点刻作業の様子

## デザイン

全体的な形状は、盛岡から望む岩手山と、市内を流れる川を表すとともに、一目で花蓮市の場所がわかるようになっています。

両市の文化を取り入れたデザインとし、裏面には日本語と中国語による碑の説明を彫り込んでいます。

また、台座部分には、令和元年11月24日に友好交流協定を締結した際の盟約書を記しています。

## 台湾の民族

台湾には現在も、多くの民族が伝統と文化を継承しながら暮らしています。

記念碑には、花蓮市を代表する三つの民族である、アミ族、サキザヤ族、タロコ族を象徴する模様をあしらいました。

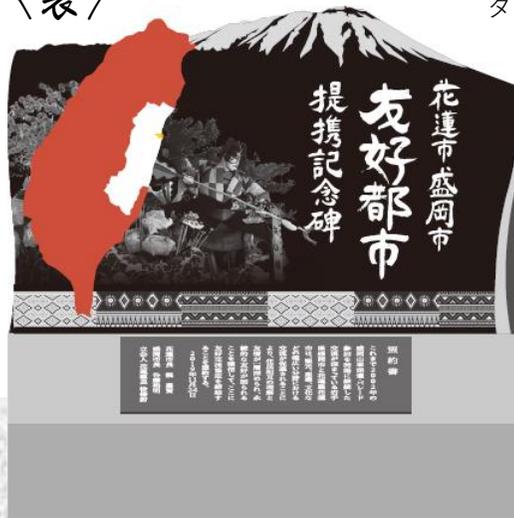


アミ族



タロコ族

〈表〉



〈裏〉



## 揮毫

記念碑に彫られる題字を揮毫したのは、盛岡市在住の書家で、数々の受賞歴を持つ伊藤康子氏です。隸書の筆法・逆筆を使い、両市民が共通して持つ温かい人柄などを表現し、印象深い文字に仕上げられています。



2020年映画「HOKUSAI」ロゴ



伊藤康子氏作品

2012年新渡戸稲造・生誕150周年  
記念講演「武士道なう。」ロゴ

## 記念碑の素材

両市の友好を表現するにあたり、使用する石材を工夫しています。

台湾を表す赤い御影石の中に、大理石を用いて花蓮県を表現し、台湾産の緑蛇紋石で花蓮市を表現しています。また、それを支える土台には、盛岡産の姫神小桜石を使用しています。

## 雄大な岩手山と 市内を流れる川



緑蛇紋石



姫神小桜石